

開館20周年記念

ふるさと

大分の洋画家たち



諫山麗吉《沈墮之瀧》1901年 大分県立美術館所蔵

2018年4月13日(金)▶5月6日(日)

休館日 4月16日(月)、23日(月)、5月1日(火)

会場 大分市美術館企画展示室

開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

観覧料 一般800(600)円／高校生・大学生600(400)円／中学生以下は無料

※()内は団体【20人以上】料金。

※上記観覧料でコレクション展も併せてご覧になれます。

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳提示者とその介護者は無料。

※本展は「大分市美術館年間パスポート」がご利用になれます。

主催 大分市美術館
後援 大分合同新聞社 NHK大分放送局 OBS大分放送 TOSテレビ大分
OAB大分朝日放送 エフエム大分 大分ケーブルテレコム

 大分市美術館
OITA ART MUSEUM



荒井龍男《紫の中》1952年 大分県立美術館所蔵



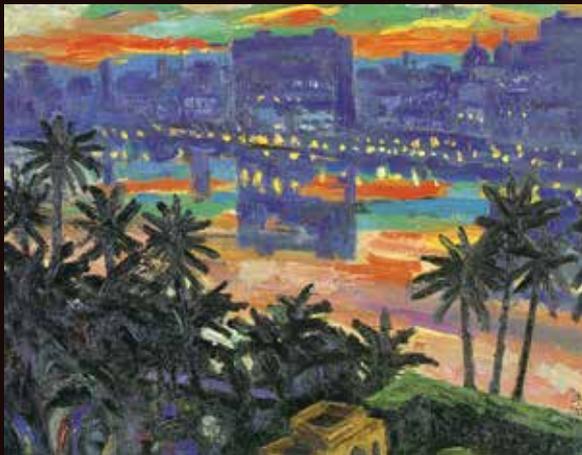
片多徳郎《湖畔春色》1916年 大分市美術館所蔵



廣瀬通秀《モニュメント》1977年 大分市美術館所蔵



権藤種男《T嬢の像》1947年 大分県立美術館所蔵



宮崎豊《カイロの朝》1969年 別府市美術館所蔵

私たちのふるさと大分は、明治初期にフランスに渡った諫山麗吉をはじめ、明治後期から昭和初期にかけて活躍した片多徳郎、戦後、県美術協会を復興させた権藤種男、パリで活躍した佐藤敬、県立芸術短期大学学長を務めた宇治山哲平、自由美術協会等で活躍した糸園和三郎など、数多くの優れた洋画家たちを輩出しています。

本展では、諫山麗吉（一八五一〜一九〇六）から約一〇〇年にわたる大分出身・ゆかりの洋画家たちの画業の足跡を大分市美術館・大分県立美術館・別府市美術館が所蔵する秀作の数々で紹介いたします。

講演会（聴講は無料です）

■場所：ハイビジョンホール ■時間：午後2時▶3時 ■定員：80名（先着順）

4月14日(土)

渡辺 恭英氏

(大分県芸術文化振興会議 顧問)

4月21日(土)

加藤 康彦氏

(大分県立美術館 副館長)

4月28日(土)

菅 章

(大分市美術館 館長)

展示解説（観覧料が必要です）

■日時：会期中毎週水曜日 午後2時▶(30分程度)
■場所：企画展示室 ■解説：当館職員



（交通案内）
バス：JR大分駅上野の森口(南口)バスのりばから
中心市街地循環バス「大分きゃんバス」[大分市美術館方面]行 約7分
タクシー：JR大分駅上野の森口(南口)から約5分
車：大分自動車道/大分ICから約10分



〒870-0835 大分市大字上野865番地
TEL:097-554-5800
FAX:097-554-5811

<http://www.city.oita.oita.jp/> → 便利ナビ → 大分市美術館へ